

新テクノロジー時代の医学部教育

scene
04

例えば、早稲田大学×日本医科大学 connection

医学と工学のような異分野の融合から解決策を生み、社会全体の健康と福祉の向上に寄与させることができます。
本学では工学系の提携校における研究配属も選択可能、幅広い研究心を育みます。

東京理科大学・早稲田大学の 研究所において、研究配属が可能



ロボバイオテクス、モーションキャプチャシステムによる運動解析

医学部教育では、医師国家試験合格だけを目標とするのではなく、学問としても医学に興味を持ち、卒業後の医学研究への動機づけや意欲を養うことも重要です。AI、ロボット、VR (Virtual Reality=仮想現実)、モニタリング技術などのテクノロジーが大きく進歩するなかにおいて、医学部教育においても早い段階から先端技術を駆使した研究に慣れておくことが必要です。

本学では東京理科大学、早稲田大学などの他大学との連携を進め、学生時代から異分野でも研究できるカリキュラムを構築しています。3年次の「科学的探究3」では、連携大学において、テクノロジーを駆使した先端的な実験も実践することが可能です。4年次以降の後期研究配属も充実しており学生のリサーチマインド涵養につなげています。

工学との融合から生まれた 多くの共同研究が進行中

< 東京理科大学 >

- 医学統計学/薬剤疫学
- バイオインフォマティクス
- ビッグデータ・医学研究
- バイオマテリアル
- データ解析/創薬情報/生命科学
- バイオマス/光触媒 etc.

< 早稲田大学 >

- AI/ロボット技術を用いた遠隔医療に関する研究・実習
- 排泄検知IoTセンサの臨床現場への適用方法の検討と実践
- 未来医療を創造する医工学研究の最前線 etc.

早稲田大学
研究配属の
学生

工学的な視点から 病態を再現しました

医学部 医学科4年 一色美穂



早稲田大学の先進的治療機器を開発する研究室で「僧帽弁閉鎖不全」という心臓の疾患を模擬した病態モデルの作製に取り組みました。

工学的な視点から病態を再現するという新しいアプローチでとても魅力的でした。装置や実験条件の設定を自ら考え、試行錯誤しながら、医療系以外の学部にも所属する学生と意見を交わし合い研究を進めました。異なる視点から物事を考えることができ、分野横断的な学びの重要性を実感することができました。将来は医学と他分野との架け橋となり、患者さんにより良い医療の実現に貢献したいと考えます。

早稲田大学との 授業交換を実施

早稲田大学からの提供科目については、e-Learningにて実施しています。

■ 早稲田大学からの提供科目

<1年次>人文社会科学

選択科目：心身論・文化人類学の最前線1・日本民俗学

■ 日本医科大学からの提供科目

医学概論

新テクノロジー時代の医学部教育

scene
05

受験時代の忘れ物を とりにいく

テクノロジーが発展する中で、これまで以上に重みを持つのが愛と倫理観をもった医師の人としての資質です。
野口英世、肥沼信次といった先輩たちの伝統に続く、豊かな人間性を育む交流がここから始まります。

豊かな人間性と国際性で 世界に目を向けて行動する

日本医科大学には学是「克己殉公」の志を胸に、世界の医療に貢献してきた先輩たちの伝統があります。黄熱病や梅毒の研究で知られる野口英世は、日本医科大学の前身である済生学舎の卒業生です。アメリカに渡りロックフェラー医学研究所の研究員となりました。黄熱病の研究のためにエクアドル、メキシコなど多くの国を訪れましたが、自らが黄熱病の研究中に感染し、1928年に英領ゴールドコースト(現在のガーナ共和国)で亡くなりました。

肥沼信次は日本医科大学を卒業後、1937年に日本政府の国費留学生としてドイツに渡り、ベルリン大学で東洋人として初の教授資格を取得しました。第二次世界大戦後、ドイツ占領ソ連軍が創設した隣町のヴリーツェンの伝染病医療センター初代所長を命じられ、ドイツ人医師不在となった同地でチフス・コレラなどの疾病対策に力を尽くし、自身もチフスに罹患して、1946年3月8日、37歳で死去しました。ふたりの献身的な研究と貢献は、今日でも多くの人々に感銘を与えています。



野口英世 Hideyo Noguchi



肥沼信次 Nobutsugu Koenuma

国際協力に
参加する
学生

東南アジアやアフリカで 小中学生に啓発活動

医学部 医学科3年 山崎 海



東南アジアやアフリカで、住み込みでボランティアをしながら、自分の研究領域である乳酸菌やビフィズス菌等の“腸内微生物”を切り口に出張授業を行いました。

現地の小中学校で「僕たちは腸内に1.5~2kgの細菌を飼っている。彼らが喜ぶ食事をしよう!」というアプローチで、消化吸収の仕組み・食育を楽しく伝えました。単なる「バランスの良い食事をとろう」という堅苦しい正論ではなかなか届きませんが、興味を引き出しながら伝える大切さを実感しました。現地での活動はトラブルも多いですが、それも含めて本当に楽しいです。これからも様々な経験と学びを重ね、国際協力や災害医療に関わりたいと思います。

多様な同級生との出会いが人間性を深める

豊かな人間性は、多様な個性を持つ人との交流から生まれます。本学では独自試験に加え、大学入学共通テスト(国語)を併用した入試区分や地域枠選抜に加え、学校推薦型選抜(指定校)と多様な選抜で幅広いバックグラウンドを持つ学生を受け入れています。本学での出会いは生涯にわたる財産となるでしょう。

I. グローバル 特別選抜

前期試験に大学入学共通テスト(国語)を併用した入試区分。出願には、英語民間試験の成績が一定以上あることが出願要件になります。

II. 早稲田大学付属・ 系属高校推薦入試

学校推薦型選抜では、早稲田大学高等学院、早稲田大学本庄高等学院、早稲田実業学校高等部の3校を指定校とした選抜を実施しています。

III. 地方会場(福岡市)の 設置

本学では前期1次試験に、東京都以外の試験会場として福岡会場(福岡県福岡市)を設けています。